

SGホールディングスグループの CSRとSDGs

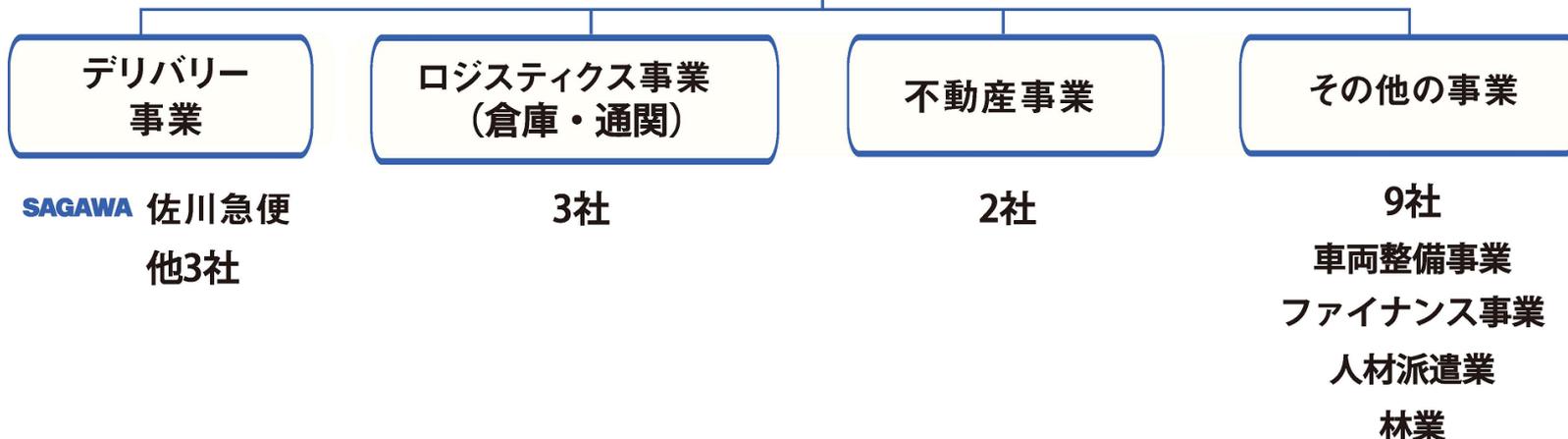
SGホールディングス株式会社
総務部 広報・CSRユニット マネジャー
依田 桃子

SGホールディングスグループについて

佐川急便を中核に持つ総合物流企業グループ

デリバリー事業、ロジスティクス事業、不動産事業などを展開

SGホールディングス

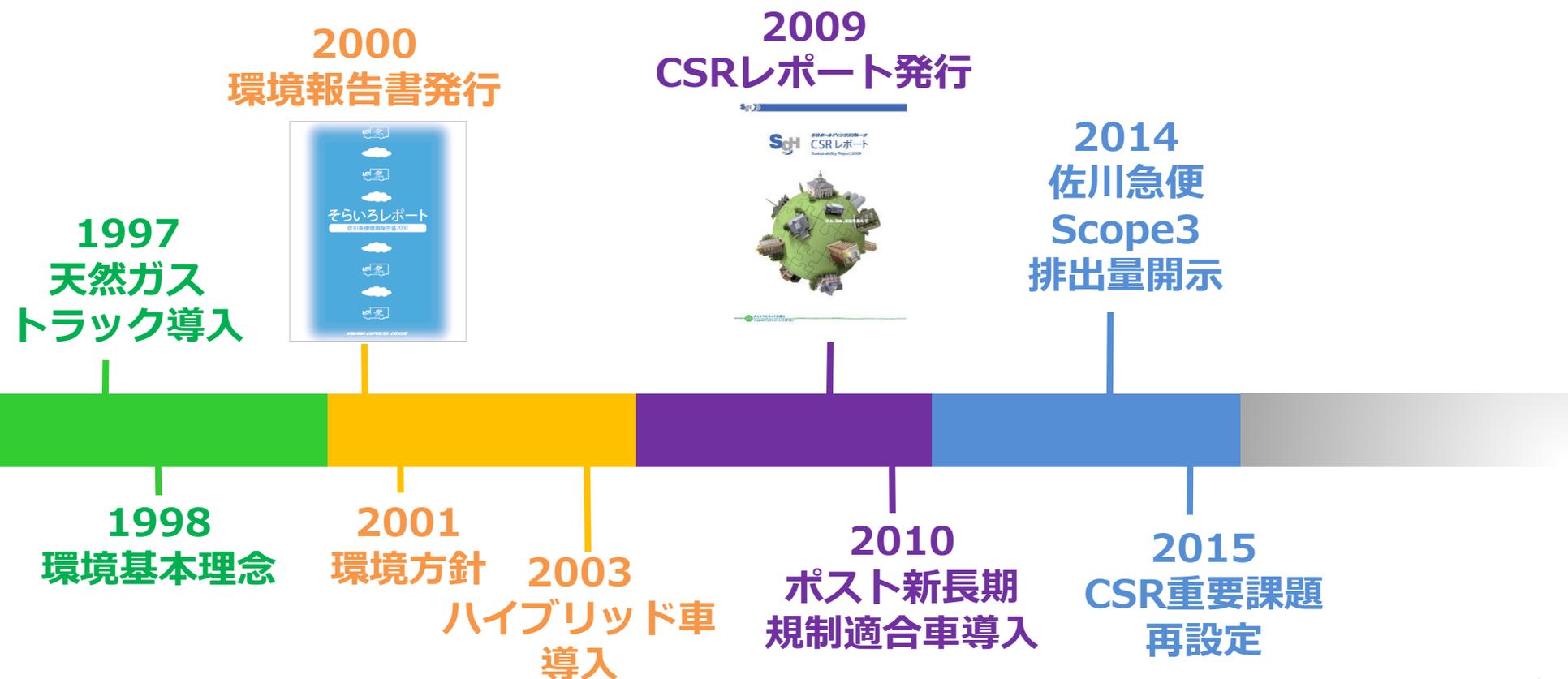


SG HOLDINGS GLOBAL 【海外法人】

アジアを中心に
24の国と地域に展開

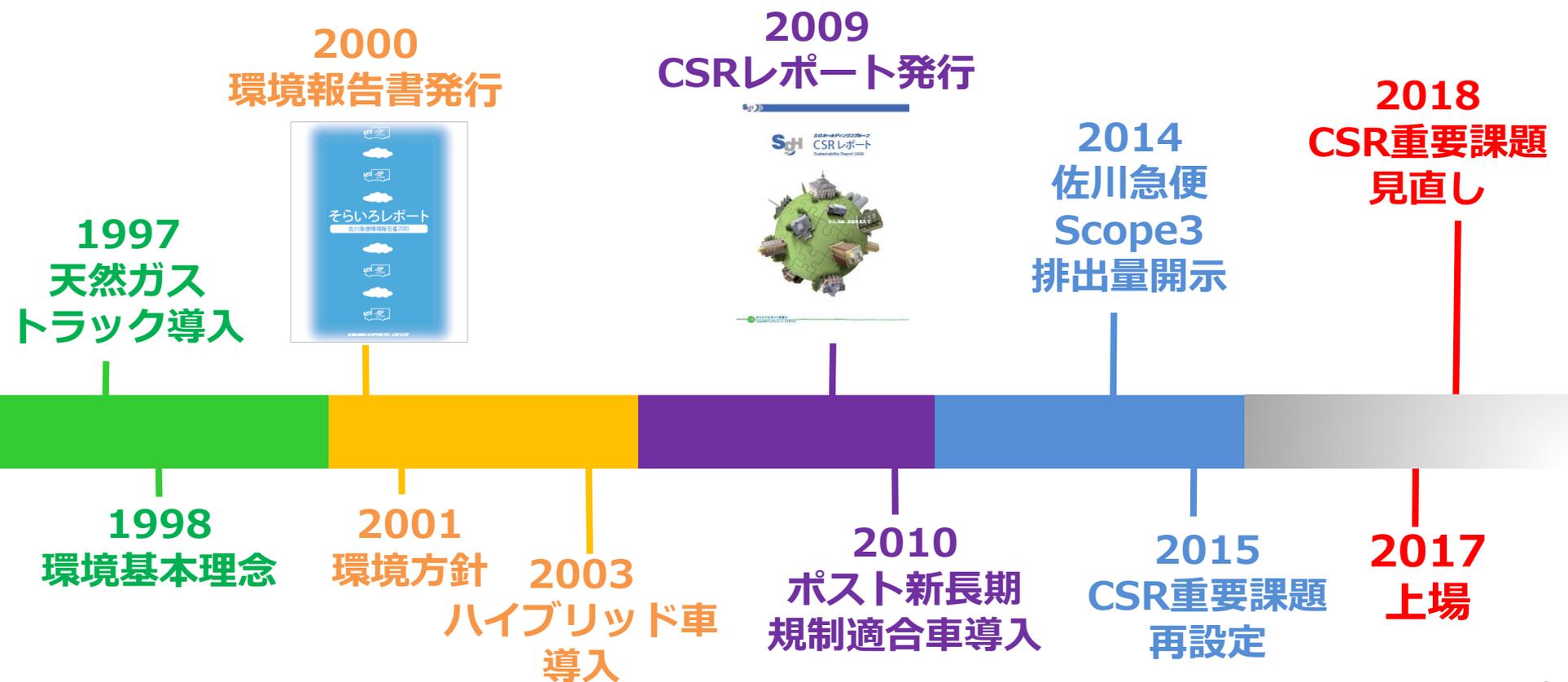
SGHのCSRの歩み

90年代から環境負荷低減に力を入れ、近年はESG全般へ取り組みを拡大



SGHのCSRの歩み

2017年12月の上場を機にCSR重要課題を見直し



2017年度 CSR重要課題 見直し



課題特定プロセスの中で社会の視点としてSDGsを活用

01 「社会的使命」を再度認識し、その全うに必要な要素と取り組みを抽出

02 「中期経営計画」に定めた取り組みを確認

03 「事業領域上のリスク」を確認し、リスク低減に必要な取り組みを抽出

04 1～3で抽出した取り組みが社会的な要請事項と乖離がないか、SDGsを活用して確認

05 1～3で抽出した取り組みをグルーピングのうえでまとめ、CSR委員会での議論を経て重要課題として特定

重要課題と特に関連の深いSDGs



事業を通じた取り組みの推進でSDGsの達成に貢献



安全・安心な交通社会の実現



環境に配慮した事業推進



個性・多様性を尊重した組織づくり



総合物流ソリューションによる
新しい価値の創造



地域社会への貢献



サステナブル調達の推進



責任ある経営基盤の構築



CO₂関連 取り組み事例紹介

環境対応車両の導入



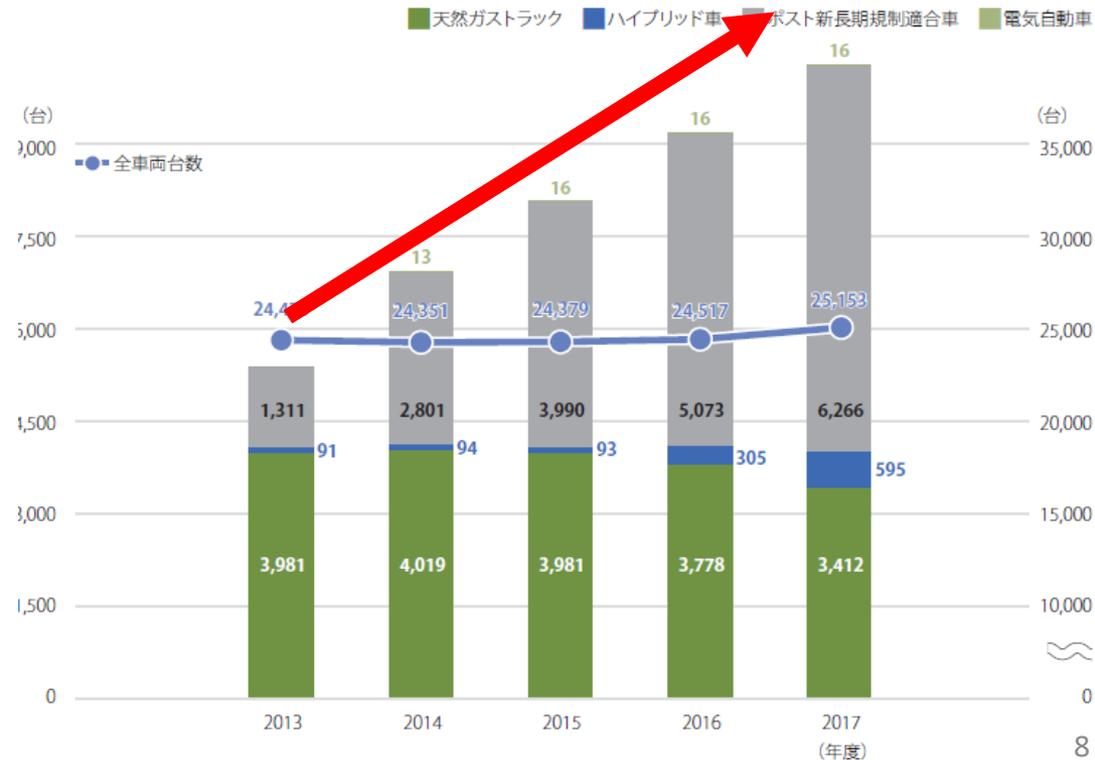
天然ガス&ハイブリッドトラック、電気自動車、
ポスト新長期規制適合車などの環境対応車を全車
両台数の約4割保有

環境対応車台数 推移



環境対応車保有台数

 **10,301** 台



サービスセンターの設置



台車や自転車などで集配を行う「サービスセンター（SC）」を展開することで、全SC合計で車両約1,500台分のCO₂排出削減



佐川急便サービスセンター

 全国 **324** か所

サービスセンター

館内物流



大規模な複合商業施設に出入りする人・物・車・情報を一括管理。納品車両を集約することでCO₂排出量を削減



館内物流システム受託件数



90件

GINZA SIXの館内物流

貨客混載の推進



過疎化が進む地方で鉄道・バス・タクシーなどの輸送余力で貨物を輸送することで、CO₂排出量の削減と地域の交通基盤の継続的な維持に貢献



北越急行の貨客混載

環境配慮型物流施設



配送拠点・流通センター全国99施設に太陽光発電設備を設置。SGリアルティ和光では、最新の自家消費型太陽光発電システムを備えている



SGリアルティ東松山



SGリアルティ和光

ソーラーパネル枚数(全国99施設総数)

 **137,808**枚

森林保全



グループで8か所、753ヘクタールの森林を保有。四国の山林では地元の森林組合とともに保全活動を、東京の高尾では子どもを対象にした自然体験学習を実施



土佐山田山林



高尾100年の森

SGホールディングスグループが保有する森の広さ*



東京ドーム 約 **160** 個分

※佐川急便と佐川林業を合わせた計約753ヘクタールとして換算

今後の課題・取り組み



- 2030年を見据えた中・長期目標の設定
 - グループ全体でのサステナビリティ関連目標設定
 - 佐川急便によるSBT※の設定
- 社内での理解・浸透促進
 - 役員へのレクチャー、SDGsバッチの着用奨励
 - 各種会議体などでの共有やワークショップの実施
- 海外グループ会社での推進
 - 現在SG佐川アメロイド（シンガポール）、エクスポランカ（スリランカ）にて重要課題に沿った目標設定と取り組みを実施。国ごとのリスクを洗い出しながら、対象とする会社を順次拡大予定